

# 防災まちづくりの会 だより

7月13日の第36回防災まちづくりの会では、今年度の活動方針と、米年度の防災まちづくりの整備内容について話し合いました。限られた予算を効果的に活用するために議論が沸騰しています。

## 予算の使い方を要望

防災まちづくりの会では、防災まちづくりのための予算の使い方について、会が積極的にかかわりたいと区に要望してきました。区ではそれを受けて、来年度の予算について会と話し合いながら決める事にしました。米年度の予算は今年の7月には要求しなければなりません。そこで、会では予算審議を行う事にしました。

会で検討した結果、来年度の防災まちづくりの予算は次のように要求することにしました。

- ① 文成小井戸広場の整備
- ② 貯水槽の設置
- ③ 民間井戸の整備
- ④ 電柱の移設
- ⑤ 事例見学会の費用

これまで防災まちづくりの予算は、学校の井戸広場の整備と、貯水槽の設置のために使われてきました。来年度はこれまでの整備を続けると共に、道路の整備もしたいというのが会の要望です。

## 防災重要道路の整備

道路の整備とは言っても、大規模な拡幅などはで

きません。会では区内のいくつかの道路を防災重要道路と位置づけています。それらの道を中心に、通行の障害となっている電柱や標識を調査し、その移動や撤去を東電やNTTのご協力をいただきながら行いたいと考えています。移動や撤去に必要な予算の一部をまちづくりの予算から出したいというのが来年度の要望に付け加えられました。

## 人材さがしや防災センターの検討

今年度の防災まちづくりの会の活動は、各部会ごとに次のように決められました。

- 水利部会……貯水槽の設置場所の検討
- 道路部会……防災重要道路の点検、移動が必要な電柱等の点検
- 救援救護部会……町会と連携して人材さがしとそのリストづくり
- 防災センター・避難場所部会……今年度買取予定の国鉄清算事業団用地の整備方法の検討と暫定的な利用計画の検討
- 広報部会……防災まちづくりニュースの年4回の発行

## 文成小井戸広場検討会スタート

# 埋蔵物に気をつけて

文成小学校の井戸広場の検討会ができました。これは区内で3つめの深井戸をどのように整備するかを検討する会です。検討会には学校とPTA、親和町会、四丁目町会の代表者の他、防災まちづくりの会からも会長と各部会長が参加しています。

文成小の敷地は区内の小学校で2番目に小さな敷地。そこに区内で1番多くの児童が通学しています。校庭が狭いため、井戸広場をつくる場所が限られてしまいます。第1回の検討会(7月6日)では、どこに井戸を掘るのがいいのかを検討しました。その結果、敷地の東側、現在焼却炉となっている所が空いており良さそうだということになりました。第2回の検討会(7月19日)では、測量の結果をもとにどのような整備が可能かを検討しました。整備内容についてはこれからも引き続き検討しますが、位置については、焼却炉の場所に決定しました。

文成小の敷地は埋蔵文化財の指定地区になっています。そのため、工事に際しては試掘調査を行わなければなりません。区では、今年度秋に埋蔵文化財の調査を行い、何も出なければ来年度工事を行う予定としています。



# 町会訪問④ 池袋本町末広町会 井上会長を訪ねて 年配者・目上の人を大切に、若い人を育てたい



池袋本町末広町会会長の井上勝司さん(1935年11月生れ)は、1952年から4年間の弟子入りを経て、現在は8代目の後継ぎの息子さんが中心になっている家業の板金業に2代目として従事し、そのかわり1980年に末広町会会長に就任されました。末広町会は、先に紹介した宮元町会と母体は同じ「本村会」で、後に東の地域が「末広町会」として独立しました。末広町会は、防災訓練、リサイクル運動、子どもを中心にした盆踊り大会などに力を入れています。特に、盆踊り大会は、本町8町会と池袋の西山町会とあわせて9町会合同参加の夏の行事です。町会のモットーは、「年配者、目上の人を大切に」で、婦人部の協力を得ながら、若い人を育てていくことが今一番大事なことでと井上さんは

おっしゃいます。そのためにリサイクルの収益金などを利用して、若い人たちの考えなどを聴く機会を積極的に設けているということです。

末広町会のおひざもとにある池袋本町公園は、地域の一次避難場所であり、防災センターの一つの拠点でもあります。また、恒例となってきた「防災まちづくり祭」や防災訓練、盆踊りの会場になっているこの公園の、みどり豊かで四季折々に人々に潤いを与えてくれている現在の姿は、1968年「子どもたちのために緑地公園を」と始まった「エンピツ広場10年戦争」と報道された先人たちの活動の成果であることを話してくださいました。これは当時すでにあった本造都営住宅の建替計画が出された時、当時の町会長(現顧問、江川氏)を中心にした地元住民が東京都に請願を出して10年後やっと公園の一期工事が完成したそうです。「次の世代のために、今私たちにできることは何か」を考えさせていただく約1時間でした。(取材:渡辺、青山)

## サバイバル・ワンポイント講座 その1 水をつくる

このコーナーでは災害時に役立つ知識をお知らせします。今回は、ペットボトルとティシュペーパーでつくる簡易ろ水器です。

用意するのは、ペットボトル1本、ティシュペーパー数枚・ナイフ1本。まず、ペットボトルを切ります(図-1)。ペットボトルのそそぎ口に十数枚のティシュペーパーを巻いて詰めます(図-2)。最後に図-3のようにして、上から汚れた水を入れればできあがりです。

ティシュペーパーの枚数によって、ろ過する能力や時間が変わりますので、一度試してみてください。地震が発生してから作り始めると結構大変ですよ!

ここで注意!!このろ水器は水に混ざっているゴミや砂などは濾すことが出来ませんが、水に溶け込んでいる色素・金属や細菌は濾すことが出来ません。飲み水にするときは必ず沸かしてからにしてください。

このろ水器を使うのは、最悪の状態のときです。地震に備えて、少なくとも1日1人3リットルの3日分の飲料水を用意しておきましょう。

(いとうえこういち/防災ネットワークプラン)

① 用意するもの…ペットボトルとティシュ



② ペットボトルは2つに切る



③ ティシュは十数枚をまるめる



④ そそぎ口にティシュをつめればできあがり

